

令和5年度 教育行政の点検評価 (令和4年度事業実績)



朝読書（平生小学校）

令和5年11月
平生町教育委員会

目 次

はじめに	1
主な取組の成果	4
【施策】	
知・徳・体の調和のとれた子どもの生きる力の育成	8
子どもの「生きる力」を育む質の高い教育環境づくり	10
人権教育の推進	11
地域で支える子育て環境づくりの推進	12
生涯学習と文化活動の推進	13
生涯スポーツの推進と地域スポーツの振興	14
読書活動の推進	15
社会教育施設や文化財等を活用した社会教育の充実	16

【はじめに】

1 趣旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（以下「法」という。）の規定により、全ての教育委員会は、効果的な教育行政を推進するために毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、住民への説明責任を果たすことが求められており、その結果に関する報告書を作成し、議会に提出するとともに、公表することとなっています。

これは、効果的な教育行政の推進に資するとともに、住民への説明責任を果たして行くという趣旨に則り行うものです。

<参考>

地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抄）

（教育に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価等）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第3項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 点検・評価の期間及び対象

点検・評価は、令和4年4月から令和5年3月の間で、「第五次平生町総合計画」「平生町教育振興基本計画」に基づき実施された事業で構成される施策を対象としています。

3 点検・評価の方法

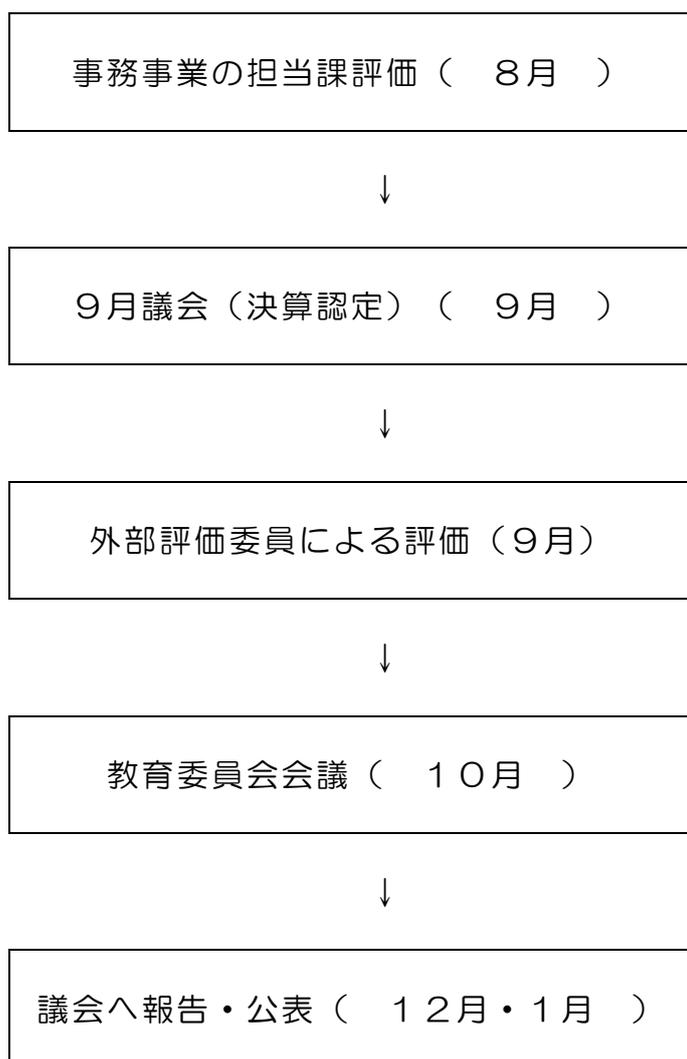
教育委員会による自己評価と併せ、教育行政評価委員による外部評価を実施しました。

法第26条第2項の規定による教育に関し、学識経験を有する者の知見を活用するため、教育委員会事務局が実施した自己評価による点検・評価の結果について、「平生町教育行政評価委員会」を設置し、下記の3名の委員から所見等をいただきました。

(敬称略)

	氏 名	所 属 等
委員長	中 田 政 明	学識経験者
委 員	福 山 圭 子	平生町小・中合同学校運営協議会長
委 員	廣 池 康 子	学識経験者

4 実施フロー



5 まとめ

教育委員会の所管する事務の点検・評価については、教育委員会独自の自己評価（内部評価）に併せ、外部評価委員（教育行政評価委員）による対象事務事業の成果等の点検・評価を行いました。

学校教育課の目標を“自分に対する信頼を高め、「がんばり」と「優しさ」を発揮する子どもの育成”と定め、1人に1台配備された端末により、授業では、様々な学習コンテンツを活用することにより主体的・対話的で深い学びの実現に向けた取組につなげました。また、整備されたICTのさらなる利活用に向けて、教育用アプリやデジタル教科書等のソフトの導入や、ICT支援員を配置し、教員のICT活用の促進に努めました。教員の働き方改革推進では、教職員の事務的業務を補助する教員業務支援員や専門的な知識・技能を有する部活動指導員を配置することにより教職員の長時間勤務を是正し、学校の指導・運営体制の充実を図りました。学校施設改修では、老朽化が進みつつある各校・園の設備点検や各校・園からの要望に基づき、計画的な改修を施すことで児童生徒の安全・安心を確保する取組を進めました。

社会教育課の目標は、「学校・家庭・地域がつながる生涯学習の推進と学習成果活用の促進」とし、「ひらおカンガルー応援隊」による家庭教育支援の取組をはじめ、学校を拠点とした教育支援活動の充実、青少年健全育成活動や子ども会活動の充実を図り、「中高生ボランティア活動」を本格的に実施しました。生涯学習の推進としては、町民憲章の具現化に向けた取組、花いっぱい運動、まちづくり出前講座の実施、人権学習講座の開催、文化協会・音楽協会が取り組む「総合文化展」「ふれあいコンサート」「町民音楽祭」等への支援、生涯スポーツの推進などに努めるとともに休日の部活動の地域移行に向けて取り組みました。また、文化財保護に関しては防火訓練の実施、文化財等周辺環境整備や防護柵整備に努めるなど、ソフト・ハード両面において事務事業を推進しました。

今回、学校教育及び社会教育の8施策について、まずそれぞれの施策を構成する関係主要事業のコストや指標の分析・検証を行い、総合的に施策の進捗状況や課題、今後の方向性から内部評価を行いました。

各施策は目標どおり、あるいはほぼ目標どおりに進捗しているという評価をし、この内部評価をベースに教育行政評価委員による評価を受けました。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受けた事業があるものの、おおむね各分野で効果的に事業展開ができていているという評価をいただきました。

今回いただいたご提言やご指摘を生かし、「平生町教育振興基本計画（令和3年度～令和7年度）に基づく施策や事業を実践し、効果的な教育行政の推進に努めます。

主な取組の成果

ICT環境の活用による教育の充実

1人に1台配備された端末により、授業では、様々な学習コンテンツを活用することにより主体的・対話的で深い学びの実現に向けた取組みにつなげた

ICT支援員による、授業支援、教材作成、校務支援などのサポートにより、教職員のICTスキルアップと働き方改革を図ることができた。

オンライン授業を効率的・効果的に行うため、ICTを活用した学習環境の整備及びデジタル教科書を整備した。

就学援助事業として、オンライン学習通信費を助成することで、家庭学習における端末利用の促進に努めた。

英語力アップ事業

英語指導助手（ALT）2名体制で、中学校、小学校及び幼稚園の英語教育の充実を図った。

外国人講師とのオンラインによる英会話授業は、自分の英語が伝わった喜びを感じることで、伝わった時の振返りによって、英語によるコミュニケーション能力の向上につながった。

学び支援事業として、実用英語技能検定料を助成することで子どもたちの自発的な学習意欲を喚起し、学力の向上を図った。

教員の働き方改革推進

ICカード、タイムカードによる勤務時間管理の適正化と状況把握に取り組んだ。

学級だより・会議資料等の印刷業務や教材教具の準備・片付けなど教職員の事務的業務を補助する教員業務支援員を配置することで、教員の長時間勤務を是正し、学校の指導・運営体制の充実を図った。

中学校において、専門的な知識・技能を有する部活動指導員を配置することにより教職員の部活動指導に係る時間を軽減し、教材研究や生徒との面談等の時間確保や経験のない競技の指導による心理的負担の軽減に努めた。

学校施設改修

老朽化が進みつつある各校・園において、計画的な改修により、児童生徒の安全・安心を確保した。

人権教育の推進

一人ひとりの人権が尊重された心豊かな地域社会づくりを推進するため、平生町人権学習講座を開催し、国や県の人権関係施策の説明や、様々な人権課題の講演会を実施することで、地域住民の人権意識の高揚を図った。

広報ひらおにおいて、人権コラム「つながり めくもり」を隔月掲載し、啓発活動に努めている。

地域で支える子育て環境づくりの推進

地域学校協働活動推進員や地域コーディネーターの配置により、幼稚園を含む学校と地域の連携・協働がスムーズになり、地域住民による学校支援ボランティア活動が幅広く行われた。

学校と家庭をつなぐ役割を担う「ひらおカンガルー応援隊」による家庭教育支援は、学校だけでなく、SSWやゆうなんこども家庭支援センターとも密に連携し、支援を必要とする児童生徒や保護者に対して、きめ細やかな支援を行う体制を整えている。

地域で子どもを育てるまちづくりの推進を目指し、青少年育成町民会議等との連携により、新型コロナウイルス感染症感染対策を講じながら、子どもたちが地域住民と交流できる行事や、登下校時の見守り活動に取り組んだ。

また、中学生・高校生が地域活動の運営サポートとして参加・貢献できる「中高生ボランティア活動」を本格的に実施し、多くの中学生・高校生が地域の諸行事に参加することで、地域の活性化につながるとともに、自身の自己肯定感や自己有用感の高揚にもつながっている。

生涯学習と文化活動の推進

生涯学習の推進については、町民憲章の具現化・花いっぱい運動・町職員が講師となるまちづくり出前講座等を実施し、町民への学習機会の提供・啓発に努めた。

生涯学習活動の拠点となる地域交流センターを所管する地域振興課と連携し、地域交流センター主催講座等の情報共有に努めた。

教育委員会主催の生涯学習講座は、新型コロナウイルス感染症感染防止対策を講じたうえで、夏休みに、小学生と保護者を対象とした天体観測会を開催した。また、多様な学習機会の提供と充実を目指し、書道入門講座、インテリア小物手づくり教室を企画した。

芸術文化活動においては、町の芸術文化活動の推進を担う、町文化協会・町音楽協会の活動を事務局として支援し、総合文化展やふれあいコンサート、町民音楽祭を3年ぶりに会場で開催し、学習成果の披露や活動発信に取り組んだ。

生涯スポーツの推進と地域スポーツの振興

「平生町スポーツ推進計画」の基本理念「スポーツで人とまちをつなぐ 元気な平生」の実現を目指し、コロナ禍の中ではあるが、感染対策を講じ、開催方法の変更や規模を縮小する等、工夫してウォーキング大会、ファミリースポーツ・レクリエーション大会を実施した。駅伝競走大会は雨天のため中止した。

令和5年度以降の休日の部活動の段階的な地域移行に向けて、地域部活動検討委員会及び検討委員会の部会（組織づくり、種目別）を開催し、協議を進めている。7月には小学生5、6年生児童、中学校生徒、小学5年生から中学校3年生までの子どもがいる保護者、部活動指導員、中学校教員を対象に、子どもたちのスポーツや文化活動への様々な志向を含め、関係者のニーズや意向、現状の把握を目的とした「中学校部活動に関するアンケート」を実施した。また、3月には文化団体・スポーツ団体にもアンケートを実施した。

読書活動の推進

2年目を迎えた「第三次平生町子ども読書活動推進計画」に基づき、子どもたちの読書活動を推進するため、引き続きブックスタート・親子ふれあい絵本事業や夏季休業中における移動図書館、学校等への児童書の配達等を実施した。

新型コロナウイルス感染症の影響による臨時休館はなく、図書館利用団体の活動も一部再開したものの、感染拡大の懸念から子ども向けや一般向けの取り組みは引き続いて中止とした。

社会教育施設や文化財を活用した社会教育の充実

文化財関係では、県の「ゆめはな開花プロジェクト推進事業補助金」を活用し、神花山古墳墳頂周辺や堀川公園奥の古墳レプリカ周辺の環境整備、堀川南蛮樋の防護柵整備に取り組んだ。

また、山口県観光連盟による「やまぐちのナゾさんぽ」に参加し、立ち寄りスポットとして土手町南蛮樋、阿多田交流館を町の文化財や歴史として発信することができた。

文化財保護に関しては、1月26日に定められている「文化財防火デー」にあわせて、白鳥神社で防火訓練を実施するとともに、神社保存会で管理されている県指定文化財「白鳥古墳出土品」の公開を行った。

また、般若寺所有の「木造聖僧坐像（伝恵慈和尚像）」が、山口県文化財保護審議会の審議及び答申を経て、県の文化財に指定された。

施策評価シート

(評価対象年度： 令和4 年度)

基本目標		02	ひとが輝くまちづくり【子育て・教育】	担当部署	学校教育課	総合評価	B
施策		02-09	知・徳・体の調和のとれた子どもの「生きる力」の育成				

1 目指す姿

高い志と広い視野を持って、可能性に挑戦する子どもが育成されるまちを目指す。
一人ひとりの願いや思いを志に高め、確かな学力を基盤とした広い視野を持って、希望を持ちつつ、未知なるものへ進んで挑戦する態度や困難を乗り越える態度、新しいものを取り入れようとする態度を身に付けた子どもを育てる。

2 評価時の現状と課題

(評価時 令和5年 6月)

現状	<ul style="list-style-type: none"> ・学力向上面については、小学校は、国語・算数で県平均より下回り、理科ではやや上回る結果であった。中学校は、国語はやや上回ったものの、数学・理科において県平均を下回った。 ・自己肯定感に関する調査では、小学校は肯定的な回答率が高まっているが、中学校はかなり低下した。 ・体力向上面では、小学生が前年度比で合計点が低下し、中学生が合計点が高くなるなど、校種間で伸びに差がある。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・学力面では、国語と算数（数学）において課題が大きい。文章に対する課題や意見を伝え合い、自分の文書のよいところを見つけることや、数量が変わっても割合は変わらないことへの理解が十分にできていなかった。 ・教員構成として若手教員の割合が多いことから、学習指導や生徒指導の個々の力を高めることが課題である。 ・体力向上については、小学生の段階から運動に慣れ親しむ習慣づくりを家庭と連携しながら進めていく必要がある。

3 成果指標

戦略	指標名	単位		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	達成率
	全国学力・学習状況調査の平均正答率	%	目標	算数・数学で県平均を上回る その他の教科で全国平均を上回る	算数・数学で県平均を上回る その他の教科で全国平均を上回る	算数・数学で県平均を上回る その他の教科で全国平均を上回る	算数・数学で県平均を上回る その他の教科で全国平均を上回る	算数・数学で県平均を上回る その他の教科で全国平均を上回る	-
			実績	小6 国:全国平均をやや上回る 算:県平均を上回る 中3 国:全国平均並み 数学:県平均並み	小6 国、算ともに全国平均を下回る。 小6 理科 全国平均をやや上回る。 中3 国:全国平均並み 中3 数学・理科 全国平均を下回る。				
	自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合	%	目標	増加させる	増加させる	増加させる	増加させる	増加させる	-
			実績	小6 60.2% (↑) 中3 82.9% (↑)	小6 73.6% (↑) 中3 62.0% (↓)	※ (↑) : 前年度実績との比較			

	全国体力・運動能力等調査における体力合計点	点	目標	増加させる	増加させる	増加させる	増加させる	増加させる	-
			実績	小5男：51.1点（↑） 小5女：54.6点（↑） 中2男：44.3点（↓） 中2女：49.6点（↓）	小5男：48.6点（↓） 小5女：54.1点（↓） 中2男：45.4点（↑） 中2女：51.4点（↑）	※（↑）：前年度実績との比較			

4 施策の方向性

「デジタル教科書実証事業（小学校5、6年算数と外国語（小学校5、6年算数は町費による事業）、中学校数学と英語）」に参加し、デジタル教科書を効果的に活用することで子どもの学力を高める。

5 関係主要事業

戦略	事業名	分析・検証結果		今後の方向性		
	オンライン英会話	A	業務の内容は適切である		D	事業・費用とも維持
	学び支援事業	A	業務の内容は適切である		D	事業・費用とも維持
	体力向上プログラム	A	業務の内容は適切である		D	事業・費用とも維持

外部評価	B	評価委員意見	<ul style="list-style-type: none"> ・学び支援事業について、英検の二分の一補助があつての実績（中学校卒業段階で英検3級以上相当を達成した中学生の割合45.1%）だと思つるので今後も継続して欲しい。 ・体力向上プログラムについて、各家庭で行うのは難しいと思うが、積み重ねが大事であり、継続して欲しい。 ・全国学力・学習状況調査の結果については、年によって変わる可能性も考えられるため、一喜一憂しなくてもよい。ただし、結果は謙虚に受け止めて考察することは必要である。 ・中学生の自己肯定感の向上について、要因や実態を注視し、支援を継続してもらいたい。個に応じた柔軟な対応が学校側の対応として重要である。
------	---	--------	--

施策評価シート

(評価対象年度： 令和4 年度)

		担当部署	学校教育課	
基本目標	02	ひとが輝くまちづくり【子育て・教育】		総合評価
施策	02-10	子どもの「生きる力」を育む質の高い教育環境づくり		
				B

1 目指す姿

ICTを生かした一人ひとりの個別最適化された学びや創造性を育む学びを実現するとともに、誰もが相互に支え合い、子どもたちが多様なあり方を相互に認め合える共生社会の形成に向けられたインクルーシブ教育システムの構築を目指す。また、常に子どもたちの前でエネルギーにいられる教師であるために、教員の働き方改革を進め、新しい学習指導要領に示す「質の高い授業の提供」に結びつける。

2 評価時の現状と課題

(評価時 令和5年 6月)

現状	<ul style="list-style-type: none"> ICT支援員による教職員へICT活用のサポートを実施 部活動指導員配置により中学校教員の時間外勤務が減少
課題	<ul style="list-style-type: none"> 校務、部活など支援する外部人材の確保 老朽化が進む学校施設の維持・管理及び計画的改修

3 成果指標

戦略	指標名	単位		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	達成率
	教員の児童生徒のICT活用を指導する能力に対する肯定的な回答の割合	%	目標	小：80 中：80	小：80 中：80	小：80 中：80	小：80 中：80	小：80 中：80	-
			実績	小：91.4 中：86.8	小：100.0 中：99.0				
	教員1人あたり1カ月時間外業務時間	時間	目標	小：41.6 中：69.3	小：39.0 中：65.5	小：36.3 中：61.6	小：33.7 中：57.8	小：31.0 中：53.9	-
			実績	小：41.4 中：69.3	小：40.8 中：59.8				

4 施策の方向性

働き方改革を進めるため、外部人材の更なる活用を行う。

5 関係主要事業

戦略	事業名		分析・検証結果	今後の方向性	
	ICT支援員配置事業	A	業務の内容は適切である	D	事業・費用とも維持
	教員業務支援員配置事業	A	業務の内容は適切である	D	事業・費用とも維持
	部活動指導員配置事業	A	業務の内容は適切である	D	事業・費用とも維持

外部評価	A	評価委員意見	<ul style="list-style-type: none"> 部活動支援員について、部活動の今後の地域移行を見据え人材発掘が必要だが、地域の方も引き受けている方も年齢が高くなっているためこれから課題が多くなると思う。 ICT支援員について、先生方からも助かるという声が上がっている。部活動支援員と同様に働き方改革につながる支援だと思う。 教員業務支援員について、適切に援助してもらっている。今後も教職員と支援員が連携して業務の効率化が進むとよい。学校内の管理職や教育委員会が実際に支援員の活動実態の把握に務めて欲しい。事業としてよい取り組みは続けて欲しい。
------	---	--------	---

施策評価シート

(評価対象年度： 令和4年度)

		担当部署	社会教育課	
基本目標	02	ひとが輝くまちづくり【子育て・教育】		総合評価
施策	02-11	人権教育の推進		
				B

1 目指す姿

「山口県人権推進指針」および「山口県人権教育推進資料」を活用する取組みにより、住民一人ひとりの人権が尊重された誰もが笑顔で住むことができる心豊かなまちを目指す。

2 評価時の現状と課題

(評価時 令和5年6月)

現状	<ul style="list-style-type: none"> ・平生町人権教育推進協議会において、学校・家庭・地域社会における、さまざまな人権教育について協議を行い、取組みを進めている。 ・地域における学習機会の充実を図ることを目的に開催する人権学習講座には、町民に限らず、町内学校教職員の参加も多い。 ・町広報紙「広報ひらお」で、人権コラム『つながりぬくもり』により、啓発に努めている。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・平生町人権学習講座は毎年受講される人も多いが、小中学校保護者世代や、町内企業の従業員に周知をする等、引き続き、幅広い世代により多く受講してもらえるような取組みが必要である。

3 成果指標

指標名	単位		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	達成率
人権学習講座参加者数 (3日間の合計)	人	目標	125	140	150	160	170	92.9%
		実績	125	130				
「広報ひらお」への「人権コラム『つながりぬくもり』」の掲載回数	回	目標	6	6	6	6	6	100.0%
		実績	6	6				

4 施策の方向性

ビルド	新規	
	拡大	人権学習講座については、より多くの町内事業所の方に参加していただけるよう周知を強化する。
スクラップ	廃止	
	縮小	

5 関係主要事業

事業名	分析・検証結果		今後の方向性	
平生町人権学習講座	A	業務の内容は適切である	D	事業・費用とも維持

外部評価	B	評価委員意見	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者世代にもっと受講してほしい。これまでの取組で積み上げられた良さもあるが、生徒と地域の方がディスカッションできる場があれば、保護者の参加も増えるのではないかとと思う。 ・日程が8月の連続した3日間であるが、実施方法や時期は課題である。
------	---	--------	---

施策評価シート

(評価対象年度： 令和4 年度)

		担当部署	社会教育課	
基本目標	02	ひとが輝くまちづくり【子育て・教育】		総合評価
施策	02-12	地域で支える子育て環境づくりの推進		
				A

1 目指す姿

学校・家庭・地域が連携した家庭教育、子育てサポートを充実させ、地域で子育てを支えるまちを目指す。

2 評価時の現状と課題

(評価時 令和5年 6月)

現状	<ul style="list-style-type: none"> ・地域学校協働活動推進員や地域コーディネーターの配置により、地域と学校の連携がスムーズになり、特色ある地域協育ネット事業が幅広く展開されている。 ・青少年育成町民会議や町子ども会等の社会教育団体との連携により、さまざまな体験機会を提供できている。 ・地域協育ネットの事業の中に立ち上げた「中高生ボランティア活動」により、町内及び近隣市町の中高生が、積極的に地域の行事にボランティアとして参加してくれている。 ・コロナ禍を機に衰退していた一部の放課後子ども教室が、内容の見直しにより、新たな体制で再開できている。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・活動を継続していくにあたり、現時点では活動が維持できているものについても、新たな人材確保等、長期的視野で体制を整える必要がある。

3 成果指標

指標名	単位		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	達成率
学校支援ボランティアなどにより学校を訪れる地域の方の人数	人	目標	6,300	6,400	6,500	6,600	6,700	104.1%
		実績	6,301	6,665				
地域協育ネットコーディネーター養成講座修了者数	人	目標	6	7	7	8	8	100.0%
		実績	6	7				

4 施策の方向性

ビルド	新規	
	拡大	子どもたちのために活動をしてくださる地域のボランティアに加え、児童・生徒の保護者世代にも声かけをする。
スクラップ	廃止	
	縮小	

5 関係主要事業

事業名	分析・検証結果		今後の方向性	
家庭教育支援事業	A	業務の内容は適切である	B	事業拡大・費用維持
地域協育ネット	A	業務の内容は適切である	D	事業・費用とも維持

外部評価	A	評価委員意見	<ul style="list-style-type: none"> ・中高生ボランティア活動が地域の活性化にもつながっている。また、地域の協力もあり、素晴らしいと思う。引き続き、取り組んで欲しい。 ・次世代（保護者世代）を育てることが課題である。
------	---	--------	--

施策評価シート

(評価対象年度： 令和4 年度)

		担当部署	社会教育課	
基本目標	02	ひとが輝くまちづくり【子育て・教育】		総合評価
施策	02-13	生涯学習と文化活動の推進		
				A

1 目指す姿

情報化社会に対応できるようなオンラインを通じた学習など、住民の誰もが、生涯を通して健康で生きがいのある人生を送ることができる生涯学習社会の実現に向けて、生涯にわたって学べる環境や体制を整え、「生涯学習のまちづくり」を進める。また、芸術文化活動による潤いに満ちた心豊かな生活の実現を目指す。

2 評価時の現状と課題

(評価時 令和5年 6月)

現状	<ul style="list-style-type: none"> ・花いっぱい運動は、町内小学生も総合学習の時間に取り組みを学習し、花壇管理団体の方々との苗移植にも参加する等、子どもたちとともに活動することができた。 ・芸術文化活動については、総合文化展・町民音楽祭等、秋の文化行事を3年ぶりに会場で開催することができ、学習活動を発信し、町民への芸術文化鑑賞機会を提供した。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習活動の充実に向けて、活動の拠点となる地域交流センターとの情報共有や事業連携により、引き続き人材発掘や人材育成に目を向けていく必要がある。

3 成果指標

指標名	単位		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	達成率
文化協会への加入団体数	団体	目標	10	10	10	11	11	100.0%
		実績	10	10				
音楽協会への加入団体数	団体	目標	11	11	12	12	13	100.0%
		実績	11	11				
花いっぱい運動コンクール参加団体・個人数	団体・人	目標	24	25	25	25	25	104.0%
		実績	25	26				

4 施策の方向性

ビルド	新規	
	拡大	文化展や音楽祭の運営について、個人単位での参加を検討することにより、新たな人材発掘・人材確保に努める。
スクラップ	廃止	
	縮小	

5 関係主要事業

事業名	分析・検証結果		今後の方向性	
芸術文化推進事業	A	業務の内容は適切である	D	事業・費用とも維持

外部評価	A	評価委員意見	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍にあって、工夫しながら進めてこられた。幅広い芸術文化が子どもたちに提供できている。 ・より多くの住民が参加できる取組をして欲しい。 ・時代も変わっている。新しい事への取組も必要である。
------	---	--------	---

施策評価シート

(評価対象年度： 令和4年度)

		担当部署	社会教育課
基本目標	02	ひとが輝くまちづくり【子育て・教育】	総合評価 A
施策	02-14	生涯スポーツの推進と地域スポーツの振興	

1 目指す姿

住民誰もが、ライフステージを通じて、それぞれの体力や関心、適性などに応じて、スポーツに親しみ、スポーツを楽しむことができる環境が整い、健康および体力の保持促進、障がい者スポーツが盛んなまちを目指す。

2 評価時の現状と課題

(評価時 令和5年6月)

現状	<ul style="list-style-type: none"> 令和5年度以降の中学校部活動の段階的な地域移行に向けて、地域部活動検討委員会を3回、地域部活動検討委員会部会を5回開催し協議を行った。 ファミリースポーツ・レクリエーション大会については、コロナ禍ではあったが感染対策を講じ、規模を縮小・工夫をして実施した。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 今後、段階的に中学校部活動を地域に移行するために、地域クラブ活動の主体となる運営団体・実施主体の取組について検討する必要がある。 ファミリースポーツ・レクリエーション大会については、多くの参加者を得ることができるよう、開催方法や内容の検討が必要である。

3 成果指標

指標名	単位		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	達成率
休日の地域部活動の実施	回	目標	検討する	検討する	検討する	準備する	実施する	—
		実績	検討した(3)	検討した(8)				
ファミリースポーツ・レクリエーション大会参加人数	人	目標	400	400	420	440	460	100.0%
		実績	中止	400				

4 施策の方向性

ビルド	新規	
	拡大	今後、段階的に中学校部活動を地域に移行するために、人材確保をするとともに運営団体・実施主体の体制を整える。
スクラップ	廃止	
	縮小	

5 関係主要事業

事業名	分析・検証結果		今後の方向性	
休日の地域部活動への移行	A	業務の内容は適切である	B	事業拡大・費用維持
ファミリースポーツ・レクリエーション大会	B	課題が少しあり業務の一部見直しが必要	D	事業・費用とも維持

外部評価	A	評価委員意見	<ul style="list-style-type: none"> 部活動の地域移行についてアンケートをされているが、受け入れの難しいグループが多いと思う。部活の種目以外のグループの代表の方とも一歩踏み込んで取り組んでもらいたい。 生徒の意見・要望も参考にしてほしい。 地域のレクリエーションも併せて見直してもらいたい。
------	----------	--------	--

施策評価シート

(評価対象年度： 令和4年度)

		担当部署	社会教育課	
基本目標	02	ひとが輝くまちづくり【子育て・教育】		総合評価
施策	02-15	読書活動の推進		
				A

1 目指す姿

図書館が、生涯学習の拠点として気軽に楽しく学ぶことができる場となるとともに、多くの本と出会う環境の中で、本を通じて住民一人ひとりが心豊かな生活を送れるまちを目指す。

2 評価時の現状と課題

(評価時 令和5年6月)

現状	<ul style="list-style-type: none"> 読書は、豊かな情操を育み、人格形成をしていく上で大きな役割を担うことから、蔵書の充実を図るとともに、ブックスタート・親子ふれあい絵本事業や移動図書館事業等により、乳幼児の時期から本に触れる環境の提供、長期休業中の子どもへの読書機会の提供に努めている。 「第三次平生町子ども読書活動推進計画」に基づき、広報や図書館ホームページ（QRコードを取り入れる等）を活用した情報発信に取り組んでいる。
課題	<ul style="list-style-type: none"> 読書ボランティアによる読み聞かせ等、学校における読書活動には取り組んでいるが、図書館まつり等の主催事業については、コロナの影響もあり、計画どおりに実施できなかった。 図書館利用促進のための情報発信手段として、ホームページの周知強化が必要である。

3 成果指標

指標名	単位		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	達成率
町立図書館年間貸出者数	人	目標	11,000	12,000	13,000	14,000	14,600	114.9%
		実績	11,107	13,791				
町立図書館年間貸出冊数	冊	目標	58,000	59,000	60,000	61,000	62,400	119.6%
		実績	58,362	70,550				

4 施策の方向性

ビルド	新規	
	拡大	
スクラップ	廃止	
	縮小	

5 関係主要事業

事業名		分析・検証結果		今後の方向性
図書館蔵書充実事業	A	業務の内容は適切である	D	事業・費用とも維持

外部評価	A	評価委員意見	<ul style="list-style-type: none"> 多くの方が利用されている。 お勤めされている方への配慮として夜間利用など開館時間の工夫をしてもらいたい。
------	---	--------	---

施策評価シート

(評価対象年度： 令和4年度)

		担当部署	社会教育課	
基本目標	02	ひとが輝くまちづくり【子育て・教育】		総合評価
施策	02-16	社会教育施設や文化財等を活用した社会教育の充実		
				B

1 目指す姿

自分たちの住む地域の歴史や文化を伝えるため、文化財を身近に感じてもらうとともに、そのものの魅力を高める。あわせて、社会教育施設の機能が充実したまちを目指す。

2 評価時の現状と課題

(評価時 令和5年6月)

現状	<ul style="list-style-type: none"> ・町内文化財（般若寺）の専門家による調査をサポートし、新たな県指定文化財が誕生した。 ・熊毛南高等学校、平生中学校の生徒が学校行事で阿多田交流館に来館し、平和学習に取り組むことができた。 ・町郷土史研究会が町内文化財を詳しく伝える冊子「文化財探訪」の制作に取り組んでいる。
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・文化財保護の関連行事にあわせて、指定文化財の公開には取り組んだが、新型コロナウイルス感染防止の観点から、歴史講座の開催に至っていない。

3 成果指標

指標名	単位		令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度	達成率
文化財の指定数	件	目標	16	16	16	16	16	106.3%
		実績	16	17				
歴史講座、特別展示の開催	回	目標	1	2	2	2	3	0.0%
		実績	1	0				

4 施策の方向性

ビルド	新規	町郷土史研究会が取り組んでいる文化財説明冊子の制作を支援し、完成の際には町の文化財を幅広く周知する。
	拡大	
スクラップ	廃止	
	縮小	

5 関係主要事業

事業名	分析・検証結果		今後の方向性	
文化財整備・活用事業	A	業務の内容は適切である	D	事業・費用とも維持

外部評価	B	評価委員意見	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史文化を伝えていくには、学校教育と連携して取り組んでいく必要がある。 ・子どもに対しては、学習カリキュラムの中で、活用することができている。ふるさと平生について、子どもたちが積極的に参加できるように情報提供してほしい。 ・多くの人たちが歴史・文化に触れられるように工夫・配慮をして欲しい。
------	----------	--------	--